

企業ニュース ツムラ

(東証1部: 4540) <https://www.tsumura.co.jp>

作成者: 兵藤三郎

医療用漢方製剤最大手

1893年、津村順天堂創業、婦人薬である「中将湯」の販売を開始した。1930年、芳香浴剤「バスクリン」を販売（2008年に家庭用品事業は売却し、現在はアース製薬の子会社バスクリン社が販売）。1974年に医療用漢方製剤の販売を開始、1976年に33処方薬が薬価基準に掲載された。当社は医療用漢方製剤の国内シェア80%以上を占めるトップメーカー。1988年に現社名に改称。2019年、天津盛実百草中薬科技（現・平安津村薬業）と資本提携し、中国事業に注力していく。医療用漢方製剤の製造販売が中核事業、漢方製剤は148処方が厚生労働省より承認されているが、内129処方を販売している。漢方製剤の生産にあたり119種の生薬も取り扱っている。漢方市場拡大のため育薬処方、Growing処方を中心に、高齢者関連、がん、女性関連を重点領域として活動している。

◇ツムラの育薬・Growing処方

育薬処方		Growing処方	
100	大建中湯	41	補中益気湯
54	抑肝散	68	芍薬甘草湯
43	六君子湯	29	麦門冬湯
107	牛車腎気丸	24	加味逍遙散
14	半夏瀉心湯	17	五苓散

(注1) 育薬処方: エビデンス確立を目指し基礎・臨床研究を推進している処方

Growing処方: 育薬処方に続く戦略処方

(注2) 数字は製品No

(出所) ツムラ資料よりCAMI作成

漢方製剤が伸長、中国事業も順調に拡大

22.3期・第2四半期累計(4-9月)の連結業績は、売上高が634億円、前年同期比11%増、営業利益が117億円、同7%増。中核事業である医療用漢方製剤の売上が伸長、OTC漢方製剤、中国での原料生薬と飲片(刻み生薬)の販売も増加、販売増加に伴う原価・経費増を吸収し増益を確保した。風邪関連処方は受診者の減少により低調に推移したが、新型コロナ影響もあり精神疾患や皮膚疾患などの処方が伸長した。期初計画に対し売上高で40億円、営業利益で30億円上振れた。

22.3期の会社計画は、売上高が1,275億円、前期比10%増、営業利益が211億円、同9%増。国内医療用漢方事業および中国事業は堅調に推移する見通し。施策などへの注力に伴い販管費などは増加するものの、従来見通しを上回るとして、期初計画から売上高で50億円、営業利益で16億円上方修正した。ただし、上期実績の上振れからは、経費増などを勘案しても保守的な計画であろう。中国で原料生薬などを扱う平安津村薬業も下期から連結業績への利益貢献が見込めよう。

[株価動向・投資判断]

医薬品全体を上回る医療用漢方製剤の成長に伴い中期的な業績拡大が期待できよう。中国市場の取り込み、生薬安定供給への対応なども評価できよう。

<4540 ツムラ 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
20.3	123,248 (2)	18,876 (2)	19,649 (▲ 0)	13,765 (▲ 6)	180.0	64.00
21.3	116,413 (-)	19,382 (-)	20,866 (-)	15,332 (-)	200.4	64.00
22.3 予	127,500 (10)	21,100 (9)	23,400 (12)	16,600 (8)	217.0	64.00

(注) 22.3期より「収益認識に関する会計基準」を適用。21.3期は当該会計基準等を遡って適用した後の数値のため、伸び率は「-」表示



[主要株価指標] (売買単位: 100株)

株価 (2021/11/26)	3,395 円
年初来高値 (高値日)	4,200 円 (21/3/26)
同 安値 (安値日)	3,060 円 (21/1/5)
予想 P E R (22.3 予)	15.6 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	2,992.9 円
P B R	1.13 倍
予想配当利回り	1.89 %
(1株当たり配当金年64.00円)	
R O E (21.3)	7.2 %
発行済み株式数	7,676 万株